

富山湾における鯨類の記録 (2006年)*

南部久男¹⁾・石川創²⁾・山田格³⁾・台藏正一⁴⁾・大田希生⁵⁾

¹⁾ 富山市科学文化センター, 〒939-8084富山県富山市西中野町1-8-31. ²⁾ 日本鯨類研究所, 〒104-0055東京都中央区豊海町4-5豊海振興ビル5F. ³⁾ 国立科学博物館動物研究部, 〒169-0073東京都新宿区百人町3-23-1.

⁴⁾ 日本セトロジー研究会, 〒939-1362富山県砺波市太郎丸80番地. ⁵⁾ 北陸水中映像

Stranding records of cetaceans in Toyama Bay, Japan, during the year 2006.

¹⁾ Hisao Nambu, ²⁾ Hajime Ishikawa, ³⁾ Tadasu K. Yamada, ⁴⁾ Masakazu Daizo and ⁵⁾ Mareo Oota

¹⁾ Toyama Science Museum; 1-8-31, Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama 939-8084, Japan. ²⁾ Institute of Cetacean Research; 4-5, Toyomi-Cho, Chuo-Ku, Tokyo, 104-0055, Japan. ³⁾ National Science Museum, Department of Zoology; 3-23-1, Hyakunin-cho, Shinjuku-ku, Tokyo 169-0073, Japan. ⁴⁾ The Cetology Study Group of Japan; 835, Taromaru, Tonami-shi, Toyama, Japan. ⁵⁾ Hokuriku underwater pictures.

Four stranding events of Pacific white-sided dolphin and one of possible Risso's dolphin were recorded in Toyama Bay, Sea of Japan in 2006. Two large schools of 1,000 Pacific white-sided dolphins were observed in Toyama Bay in the end of April 2006. Pacific white-sided dolphin is the most common species in Toyama Bay. Analysis of past stranding and sighting records suggested that Pacific white-sided dolphins in the Sea of Japan migrate northward from April to June.

Key words : Toyama bay, Pacific white-sided dolphin

キーワード : 富山湾, カマイルカ

はじめに

富山湾では筆者らの継続的な調査等により, これまで約13種の鯨類がストランディング及び目撃により記録されている(佐野, 1999; 南部他, 2001, 2003, 2004; 南部他, 2003, 2004, 2005, 2006; 関他, 2005)。本論文では, 2006年に富山湾(富山県側)で確認したイルカ類について報告する。また, 2006年はカマイルカの記録が多く, 日本海側におけるカマイルカの回遊についても考察を加えた。

方 法

富山湾のイルカ・クジラ類のストランディング情報を入手し, 漂着状況に関する現地調査や計測等を行った。海洋レジャー関係者等から聞き取りにより, 目撃情報を収集した。写真がある場合は, 種の鑑定を行った。また, 日本海沿岸におけるカマイルカの回遊状況を知るため日本鯨類研究所ストランディングデータベース2006を用いた。

調査結果

2006年に富山湾でストランディングにより確認されたのはカマイルカ4例4頭と, ハナゴンドウの可能性のある1例1頭である。聞き取りにより確認されたのは, カマイルカだけであった。これらの確認状況等を下記に示し, 確認地点を図1に示す。

I 漂着記録

カマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens*

マイルカ科 Delphinidae

1 例目

場所: 高岡市太田雨晴の波打ち際(人工のレキ浜)
(図1-①, 図2)

確認日: 2006年5月8日, 午後2時頃

状況: 地元住民により発見され, 富山県高岡土木センター海岸班により現地確認される。5月9日午後, 南部久男, 台藏正一, 大田希生により, 現地調査を

* 富山市科学文化センター研究業績第334号

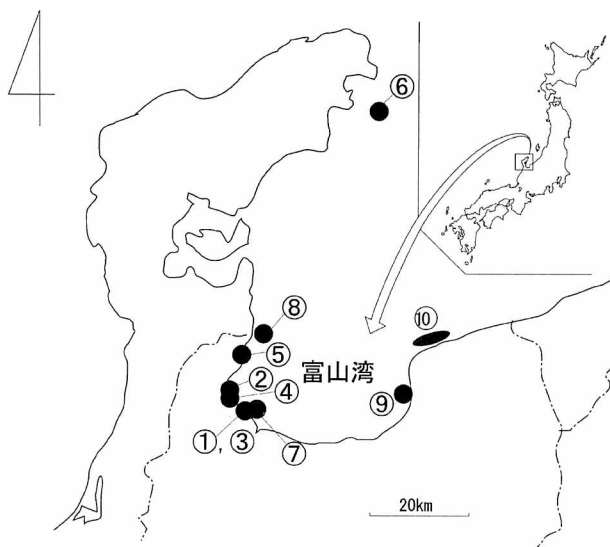


図1. 2006年のイルカ類の確認地点. ①高岡市大田雨晴, ②氷見市窪, ③高岡市松太枝浜, ④氷見市島尾, ⑤氷見市中波, ⑥内浦町沖, ⑦高岡市大田雨晴沖, ⑧七尾市大泊沖, ⑨魚津市, ⑩黒部市宮崎鼻沖

行い、国立科学博物館へ搬送した。

性別・計測値等：オス，体長 150cm。2006年に打ち上がったイルカ類では，最も状態は良く，体幹の表皮は残り，模様は残っていた（図2）。



図2 高岡市雨晴に打ち上がったカマイルカのオス（南部久男撮影）

2 例目

場所：氷見市窪島尾海岸の波打ち際（図1-②，図3）

確認日：2006年5月13日，8時

状況：氷見市海浜植物園職員によって発見され，富山県高岡土木センター氷見土木事務所河川班職員に

よって現地確認される。5月14日午後南部久男他3名で現地調査を行う。

性別・計測値等：オス，体長 187cm。イルカは体幹前半部分の表皮が剥がれ，右頬に穴があく。頭骨は富山市科学文化センターで保管。



図3 氷見市窪島尾海岸に打ち上がったカマイルカのオス（南部久男撮影）

3 例目

場所：高岡市大田松太枝浜雨晴マリーナ付近（図1-③，図4）

確認日：2006年5月14日，10時

状況：地元住民により発見され，富山県高岡土木センター海岸班職員，高岡市農林水産課職員によって現地確認される。5月14日南部久男現地調査。

性別・計測値等：メス，体長 186cm。表皮の大部分が剥がれる。下顎骨突出する。胸びれ先端欠損する。腹部2箇所穴があく。背びれ，尾びれ先端欠損する。尾にロープがまきついていた。

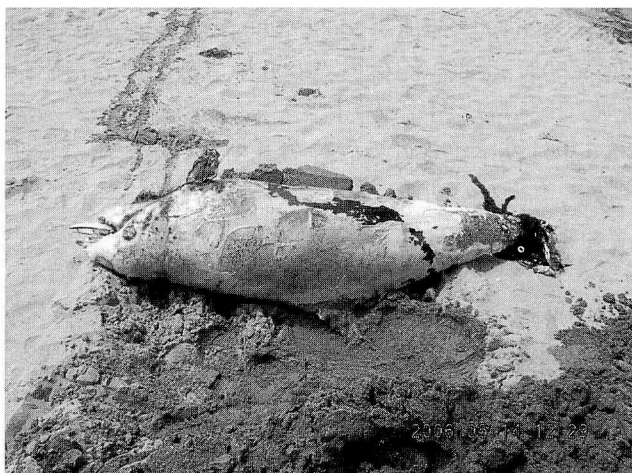


図4 高岡市松太枝浜に打ち上がったカマイルカのメス（南部久男撮影）

4 例目

場所：氷見市柳田島尾海岸の波打ち際（図1-④、図5）

確認日：2006年5月15日，11時

状況：氷見市環境課職員が発見し，富山県高岡土木センター氷見土木事務所河川班職員によって現地確認される。5月15日午後南部久男現地調査。

性別・計測値等：オス，185cm。表皮の大部分が剥がれる。下顎骨突出する。胸びれ先端欠損する。右腹部1箇所にあきがあり，胃，腸等の内臓が飛び出る。背びれ及び尾びれ先端が欠損。頭骨は富山市科学文化センターで保管。

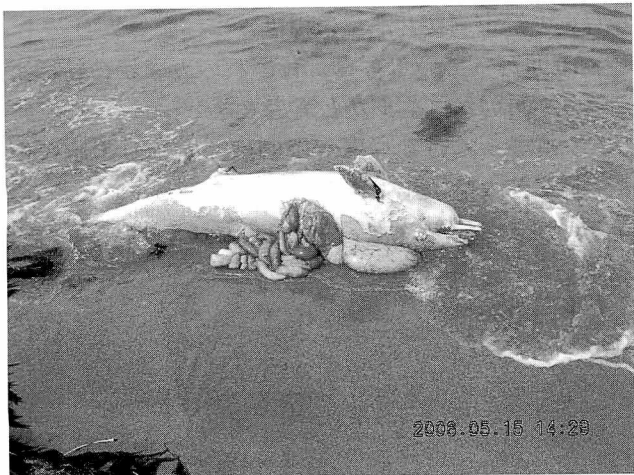


図5 氷見市柳田島尾海岸に打ち上がったカマイルカのオス（南部久男撮影）

ハナゴンドウ *Grampus griseus*

マイルカ科 Delphinidae

場所：氷見市中波（図1-⑤、図6）

確認日：2006年6月15日

状況：地元住民によりテトラポッドの内側（陸側）で，ホンダワラ類とともに浮遊していたのが発見される。富山県高岡土木センター氷見土木事務所河川班職員によって現地確認される。6月16日，19日，20日，南部久男により現地調査。6月22日に処分される。

性別・計測値等：性別不明。体長160cm。体重約100kg（イルカを入れていた袋と袋の中のわずかな海水を含む）。発見時，体の右側が上になっていた。かなり腐敗し，空気にふれている体の右側の表面は茶色く変色していた。尾は欠損していた。胸ビレは欠損し，右の上腕骨が飛び出していた。頭部及び下顎前半部は欠損し，上顎骨及び下顎骨が剥き出しになっていた。歯は無くなっており，歯槽は下顎骨の先端に見られた。歯槽が下顎骨の先端にのみ見られたこ

とより，ハナゴンドウの可能性が高いと思われる。頭骨は富山市科学文化センターで保管。



図6 氷見市中波のホンダワラ類の間で漂うハナゴンドウ（南部久男撮影）

II 目撃情報

1. 石川県内浦町沖（図1-⑥）

隅谷善彦氏からの聞き取りによる。

概要：2006年4月7日，12時頃，内浦町沖で，100～200頭のイルカに遭遇。

2. 富山県氷見沖

2003年5月13日の北日本新聞朝刊による。

概要：氷見市の漁業組合のコメントとして，イルカがここ2～3週間多くみられ，定置網に入ることもあり，船の周囲すべてにイルカがいることがある。

写真鑑定：新聞に定置網に入ったイルカ3頭の写真が掲載され，3頭ともカマイルカであった。

3. 富山県高岡市雨晴沖合（図1-⑦）

雨晴マリーナの関係者からの聞き取りによる。

概要：連休頃（4月下旬）に，多いときは100頭くらい目撃した。

4. 富山県高岡市雨晴沖から氷見市大泊沖

隅谷善彦氏からの聞き取りによる。

概要：2006年4月30日，プレジャーボート及び水上スキーで雨晴から能登島へ往復した際にイルカに遭遇した。

表1 富山湾におけるカマイルカの過去の記録（主に富山県側）

年月日	場 所	状 況	引 用
1998年5月18日	七尾市佐々波沖	群	関他（2005）
2000年4月21日	氷見市氷見漁港沖	群	関他（2005）
2001年4月20日	魚津市三ヶ	群	南部他（2002）
2001年5月15日	新湊市富山新港沖	群	関他（2005）
2002年2月27日	富山市岩瀬港沖	群	関他（2005）
2002年4月2日	高岡市雨晴	メス死体	南部他（2003）
2003年5月16日	魚津市三ヶ	メス死体	南部他（2004）
2004年4月11日	魚津市片貝川河口沖から経田の間	群	南部他（2005）
2005年6月21日	氷見市松田江浜	性別不明死体	南部他（2006）

・10時前、石川県七尾市大泊沖4～5マイルで、イルカ数十頭に遭遇した（図1－⑧）。

・15時頃、富山県高岡市雨晴沖3マイルで、約800頭（1000頭近い）のイルカに遭遇した。船の周り中イルカであった（図1－⑦）。

写真鑑定（ジョイマリンエンジニアリングホームページ（<http://joymarine.com/900sts.html>）による。）

：雨晴沖の1枚の写真に写っていた10頭のイルカのうち、8頭はカマイルカと鑑定された。

5. 富山県魚津沖

富山テレビ放送からの情報提供による。

概要：2006年5月10日、10時頃、魚津漁港沖でイルカを目撃した（図1－⑨）。

写真鑑定：撮影された1枚の写真にカマイルカが3頭写り、1頭はジャンプしていた。

6. 富山県黒部沖

桜井浩二氏からの情報による。

概要：2006年4月30日、ヨットで新潟県柏崎市から富山県黒部市へ向かう途中の12時20分頃、黒部市宮崎鼻沖8kmで、富山方面から姫川方面（岸にそって西から東）へ向かっているイルカ先頭集団（数十頭）と遭遇した（図1－⑩）。さらに、この先頭集団の後方に、長い1列の筋のように見える大きな集団と遭遇した。幅5～6mで5頭ほどの群で泳いでおり、その100m程離れたところにもう1列の群れがあり、100m程離れて2列になっていたと思われる。ヨットと最も近づいたのはイルカから50m程の距離で（図7）、イルカの呼吸する音が聞こえた。ヨットは5ノット（時速約9キロ）で走行しており、群れとすれ違いに要した時間は40分ほどであった。群れの長さは3kmを超えていたと思われる。目撃したイルカは水族館でみたことのある白黒模様のカマイルカであった。目撃したイルカの総数は1000頭ほどだった。

写真の鑑定（桜井浩二氏提供）：

・10頭写っている写真：背びれのカマ状の特徴より9頭がカマイルカと鑑定できた。

・3頭写っている写真：1頭は、胸びれや胸の模様よりカマイルカであった。

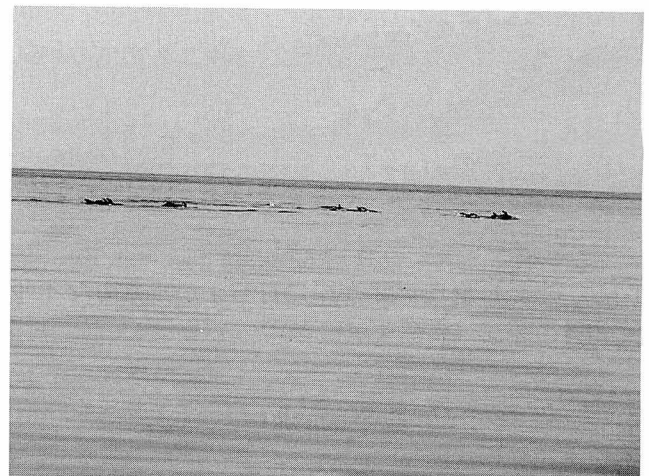


図7 ヨットから50mほどですれ違ったカマイルカの群（桜井浩二氏提供）

考 察

富山湾へのカマイルカの来遊状況

1. 過去の記録

2006年のストランディング、聞き取り情報により確認できたイルカはカマイルカとハナゴンドウであった。前者は富山湾では最もよく確認されている種であるが、後者の確認例は少ない（佐野，1999；齋藤，1999；桶田，2000；南部他，2001，2003，2004；南部他，2003，2004，2005，2006）。

富山湾（富山県側）のカマイルカの記録は、2，4，5，6月の記録があるが（表1），4，5月が多く、2006年に確認された月と一致する。

2. 2006年のカマイルカの来遊状況

2006年のカマイルカのストランディングは、5月

8日～15日の1週間ほどの間に富山湾西部の高岡市雨晴から氷見市島尾にかけての狭い範囲で、4例4個体が確認された。マリナー関係者等からの聞き取りにより、4月下旬頃には、雨晴沖から氷見市沖には、イルカの大きな群れが来遊しており、写真鑑定できたものは全てカマイルカであったことから、この時期にカマイルカの大きな群が来遊し、何らかの原因により、死亡し、相次いで漂着したものと考えられる。

4月30日の目撃情報より、富山湾の東西で、目撃時間帯が異なる大きな群が確認されており、カマイルカだけの群れなのか、他のイルカが混じった群れなのかは不明であるが、少なくとも、富山湾の東西にそれぞれにカマイルカを中心とした1000頭近くの大きな群が存在していたと思われる。富山湾東部の群は、東へ向かっているのが観察されており、新潟県沖合方面へ海岸沿いに回遊している途中と思われる。

日本海におけるカマイルカの季節移動

日本海のカマイルカは、冬から夏にかけて本州沿岸を北上し、オホーツク海まで移動すると考えられている(石川, 1995; 岩崎, 1997)。日本鯨類研究所ストランディングデータベース2006に基づき日本海側のカマイルカのストランディングレコードを月別緯度別にプロットすると、この季節移動が鮮明となる(図8)。すなわち、1～3月までは33°40'N付近(九州北部)から37°N付近(新潟県)まで広範囲に分布していたカマイルカが、4月頃から40°N(秋田県北部)を越え、6月には42°(北海道)に至っている。7月以降の北海道日本海側の記録は皆無に近く、こ

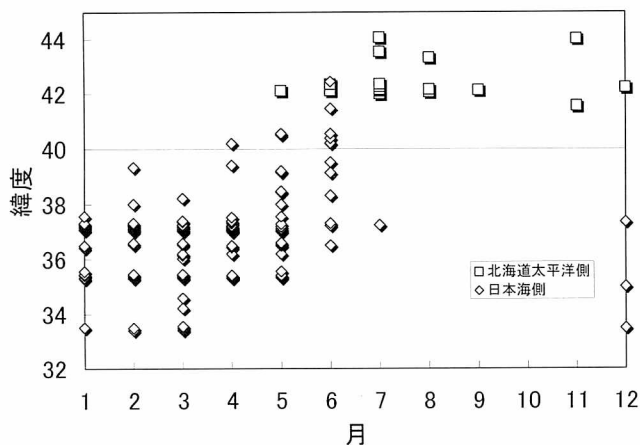


図8. 日本海側カマイルカにおけるストランディング緯度の月別推移。参考として北海道太平洋側の記録もプロットした。

れらの個体群はオホーツク海に抜けたと考えられるが、同時期に北海道太平洋側の記録が出現する事から、少なくとも一部のカマイルカは津軽海峡を抜けて太平洋側に移動すると推定でき、これは噴火湾や津軽海峡などでの目視情報(柴田他, 2006)とも一致する。一方、秋以降の移動に関してはストランディングレコードには明確に現れず、南下の時期や移動の状況などについては不明である。

謝 辞

貴重な情報を提供していただきました桜井浩二氏、ジョイマリンエンジニアリングの隅谷善彦氏、雨晴マリナー、富山テレビ放送株式会社、調査にご協力いただきました富山県高岡土木センター、同氷見土木事務所、富山テレビ放送、関東雄氏、作図をしていただきました志波友子氏に厚くお礼申し上げます。

文 献

- 石川創, 1995. ストランディングレコードから見た日本沿岸の鯨類の生態(Ⅱ). 鯨研通信 388:6-11.
- 岩崎俊秀, 1997. 13.カマイルカ. 日本水産資源保護協会編. 日本の希少な野生生物に関する基礎資料(Ⅳ). p.410-413.
- 南部久男, 稲村修, 田島木綿子, 倉持利明, 山田格, 2002. 富山湾における鯨類(Cetaceans)の記録(2001年). 富山市科学文化センター研究報告, (25):129-132.
- 南部久男, 西岡満, 田中豊, 太田希生, 2003. 富山湾における鯨類・ウミガメ類の記録(2002年). 富山市科学文化センター研究報告.(26):145-147.
- 南部久男, 西岡満, 関谷伸一, 山田格, 太田希生, 2004. 富山湾における鯨類の記録(2003年). 富山市科学文化センター研究報告. (27):75-78.
- 南部久男, 山田格, 石川創, 2003. 富山湾におけるコクジラの記録. 日本海セトロロジー研究会第14回大会発表要旨集.9.
- 南部久男, 山田格, 石川創, 2004. 日本海のコクジラ回遊ルート. 日本海セトロロジー研究会第14回大会発表要旨集.8.
- 南部久男, 田島木綿子, 新井上巳, 山田格, 田中豊, 太田希生, 2005. 富山湾における鯨類の記録(2004年) 富山市科学文化センター研究報告. (28):91-94.
- 南部久男, 山田格, 2006. 富山湾における鯨類の記録(2005年) 富山市科学文化センター研究報告. (28):113-114.

- 関東雄，南部久男，山田格，石川創，2005. 富山湾の海上における鯨類の目撃記録.富山市科学文化センター研究報告. (28):17-24.
- 桶田俊朗，2000. 能登に来遊したクジラ類Ⅱ.能登の海からのたより. (40):4-5.
- 佐野修，1999. 第1章石川県の海棲哺乳類.石川県の哺乳類.石川県哺乳類研究会編，pp.107-120.
- 齋藤豊，1999. 能登に来遊したクジラ類Ⅰ.能登の海からのたより. (39):4-5.
- 柴田泰宙，片平浩孝，篠原沙和子，鈴木初美，上田茉莉，鶴山貴史，松石隆，2006.津軽海峡における鯨類の種構成と地理的・季節的分布についてⅢ. p.13. 日本セトロロジー研究会第17会大会発表要旨集.